

健康的な食事の実現に向けた 食料システムの役割は何か？

2025年

3/6 [木]

18:30 - 20:00 *日本時間

(ロンドン時間同日 9:30 - 11:00)

会場：Zoomウェビナー

*日・英同時通訳

参加
無料

<対象>
ご関心のある方なら
どなたでも参加いただけます

参加申し込み受付中
専用フォームより
お申し込みください



<https://forms.office.com/r/U4EQuwULb0>

主催 独立行政法人国際協力機構 (JICA)



プレゼンテーションテーマ



IFNA 2016-2025の歩みと成果
ケフィルウェ・モアロシ
アフリカ開発銀行 (AUDA-NEPAD)



栄養素ギャップに基づく食料アクセス改善
アプローチとNFAアプリ
仲田 俊一
JICA経済開発部



栄養改善のための
「食品ベースの食事ガイドライン」
マーシー・チココ
FAO南部アフリカ地域事務所



栄養行動改善のためのフードトラック
ツールとマルチセクター連携
(PASANプロジェクトの事例から)
ラザフィマハチャチャ・
ファンジャヌメンジャナハリ・
マリー・エメ
マダガスカル国家栄養局



ADD-ITアプリを活用した食の選択と
消費行動の改善
森元 泰行
国際植物遺伝資源研究所



栄養サプリメント「ココプラス」による
食料アクセスの改善
ケネディ・ボムフェー
KOKO Plus Foundation



モデレーター
下川 貴生
JICA経済開発部

本ウェビナーでは、国際機関、途上国政府、民間企業などによる農業や食料アクセスの改善を通じて健康的な食事の実現を目指す多様な取組を紹介します。さらに、JICAが提唱する「栄養素ギャップに基づく食料アクセス改善アプローチ（NFAアプローチ）」に基づき、①食事評価、②食料アクセス改善、③より良い食事摂取の観点からそれらの取組を比較し、食料システムがどのように栄養改善に貢献するかを検討します。



ケフィルウェ・モアロシ

アフリカ連合開発庁 シニアプログラムオフィサー（栄養・食品安全）

栄養と食品安全の分野において20年以上の経験を持ち、アフリカ大陸全体で栄養、農業、食料安全保障の推進において重要な役割を果たしている。彼女の専門知識は、アフリカ連合開発庁の栄養と食品システム実施戦略（2019-2025）を含む重要な枠組みや戦略の開発と実行に貢献している。さらに、地元産の農作物と学校給食を結びつけ、食料安全保障と教育成果を促進する「地産地消の学校給食プログラム」などのイニシアチブを主導している。



仲田 俊一

JICA経済開発部 国際協力専門員

2016年よりJICAの農業シニアアドバイザーを務める。栄養、食品安全・品質管理、食品バリューチェーンなどの分野で活動。JICA以前は、日本の農林水産省に20年以上勤務し、食品安全、環境と農業、バイオエネルギー、果樹農業振興、貿易政策など様々な分野に携わる。また、国際再生可能エネルギー機関（IRENA）に派遣され、長期的なバイオエネルギー需給に関する業務に従事したほか、政策アドバイザーとしてフィリピン農務省に派遣された経験も持つ。



マーシー・チココ

FAO南部アフリカ地域事務所、栄養担当官

オレゴン州立大学で人間栄養学の博士号と公衆衛生の修士号を取得、同分野で25年以上の職歴を持つ。南部アフリカ開発共同体（SADC）の15カ国に対し、その地域の農業と食料システムが健康な食生活を促し、栄養失調と貧困の減少に貢献するよう支援している。また、SADC諸国における食料・栄養安全保障政策、食品ベースの食事ガイドライン（FBDG）、食品組成表、栄養調査の開発や、栄養に配慮した食料システムの変革を支援。FAO参加前は、ユニセフのスーダン現地事務所長兼栄養専門家、WHOのアフリカ地域事務所長を歴任し、南アフリカのOXFAM GB、およびマラウイ大学の学術界でも活動。



ラザフィマハチャチャ・ファンジャヌメンジャナハリ・マリー・エメ

マダガスカル国家栄養局、技術連携ユニット長

マダガスカル国家栄養局の技術連携ユニット長として、国家栄養政策と国家マルチセクター行動計画に基づく栄養プログラムの実施を調整・強化を担う。東京栄養サミット2021の公約を評価し、パリ栄養サミットに向けて新たな公約を策定する国家タスクフォースのメンバーも務める。2019年にはJICAの母子栄養改善の研修プログラムに参加。2024年に南アフリカで開催されたアフリカ国家リーダーシップ・プログラムにも参加。



森元 泰行

国際植物遺伝資源研究所研究員、JICA専門家（ケニアIFNuSプロジェクト：農業家畜分野）

農学博士。1995年にケニア国立博物館にて民族植物学者として勤務。2004年から、国際植物遺伝資源研究所（現・バイオバイバーシティ・インターナショナルとCIATアライアンス研究所）において、民族植物学と遺伝的多様性研究員として活動を行っている。研究テーマは、アフリカにおける在来食用作物の多様性や先住民の知識の再評価と持続可能な活用に焦点を当てており、持続可能な食糧生産、栄養安全保障、気候変動への適応、包摂的な地域社会の発展といった地球規模課題に取り組んでいる。2021年には、彼が主導的に関わった「伝統食ものがたり：Traditional Foodways」の手法が、UNESCOの無形文化遺産の保護における優良事例として認定され、その革新的な研究手法と地域社会及び国際的な影響力が高く評価された。



ケネディ・ボムフェー

KOKO Plus Foundation 生産・学術部長

味の素財団のガーナにおける実働部門となる、KOKO Plus Foundationのプロジェクトおよび学術部門のディレクターを務める。栄養学と食品科学のバックグラウンドを持ち、ベルギーのアントワープ大学で生命科学工学（食品科学）の博士号を取得。2011年以来、味の素財団のガーナ栄養改善プロジェクト（GNIP）に関与しており、製品開発、栄養効果の研究、並びに低所得層の乳幼児栄養改善を目的とした栄養豊富な食品の持続可能な配送システムの検証において重要な役割を果たす。



下川 貴生

JICA経済開発部 部長

1993年、旧海外経済協力基金入社。東南アジア、太平洋地域等の円借款、人事、総務・広報等、事業、官房両面から業務に従事。アフリカ部（南部アフリカ担当）課長、審査部信用力審査課長、東南アジア・大洋州部（インドネシア・マレーシア担当）課長、人事部人事課長、アメリカ合衆国事務所長を経て、現職。